ウィルムスがん財団

ウィルムス腫瘍

小児腎がんの啓発

病気・症状・治療・支援





ウィルムスがん財団（WCF）

ウィルムスがん財団（WCF）は、小児腎がん（特に、一般にウィルムス腫瘍と呼ばれる腎芽腫）の影響を受ける子ども、家族、医療機関を支援し、そのニーズを代弁する慈善団体です。啓発、教育、権利擁護、早期発見、治療、支援に関する国際的なプログラムを確立し、この病気の広がりに取り組むことを使命としています。

このWCFガイドは教育目的の資料です。カナダ、米国、欧州の国際的な小児がん診療基準に基づいています。ご心配やご質問がある場合は、資格を持つ医療専門家にご相談ください。

© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます

目次

小児腎がんの啓発

資料シリーズ5.7a

（病気・症状・治療・支援）

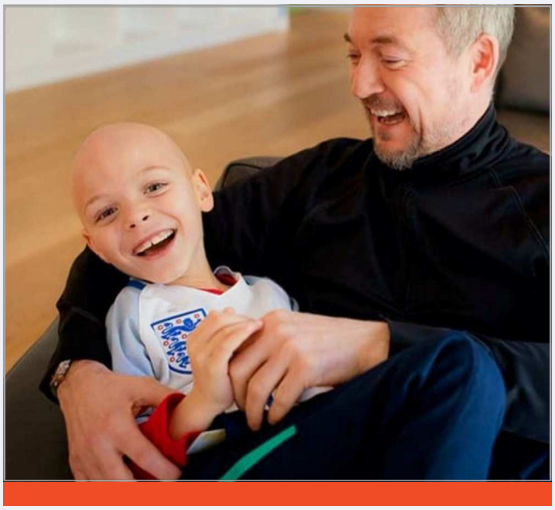
病気 …… 2

症状 …… 3

治療 …… 3

今後の課題 …… 4

支援 …… 5





ウィルムス腫瘍（ステージ4）
腹部と肺

小児腎がん

子どもの腎臓のがん

ウィルムス腫瘍（医学用語：腎芽腫）

病気

腎芽腫（一般にウィルムス腫瘍と呼ばれます）は、小児の腎がんで最も多く、小児がん全体では4番目に多いがんです。小児腎がんの10例中9例を占め、世界では常時19万人以上の子どもがこの病気の影響を受けています。胎児期に正常に発達しなかった未熟な腎細胞から生じる悪性腫瘍です。これらの細胞が制御なく増殖し、通常は片方の腎臓に固形の腫瘍を形成しますが、両方の腎臓に発生することもあります。

多くの子どもでは、発症の明確な原因はわかっていません。尿路の異常やその他の先天異常を伴うことがあります。小規模な研究では、一部の環境要因と発症リスクの上昇との関連が示唆されていますが、結果は一致していません。

腫瘍が大きくなると腎臓の正常な構造が変形し、血液やリンパを通じて広がることがあります。特に肺や周囲の腹部組織に転移しやすいとされています。増殖は速いものの、一般に治療によく反応し、小児がん医療の進歩により、多くの子どもで長期生存が可能になっています。

「腎がんは、小児がん全体で
4番目に多いがんです」

症状

ウィルムス腫瘍は3〜4歳で最も多く発症しますが、10代や、ときには成人にもみられます。腫瘍は腎臓から発生し、やがて腎臓自体より大きくなることがあります。通常は腫瘍と腎臓の両方を摘出します。進行すると肺、肝臓、骨などへ転移し、命に関わることもあります。

症状はさまざまで、重い症状が出る前に見つかる子どもも多くいます。最も一般的な徴候は、痛みのないおなかの腫れやしこりで、入浴や着替えの際に保護者が気づくことがあります。腹痛、発熱、疲労、食欲低下、体重減少がみられる場合もあります。腫瘍が腎機能に影響して高血圧になる子どもや、血尿・排尿の変化が生じる子どももいます。頻度は低いものの、肺に転移した場合は、続く咳や息切れが現れることがあります。よくある小児の病気に似た症状もあるため、長引く徴候や普段と違う徴候は、早期診断のため速やかに医療機関で評価を受けることが重要です。



「早期に発見できれば、
良好な生存率が期待できます」



治療

早期に発見できれば良好な生存率が期待できます。しかし、残念ながら何年も診断されない子どもも多く、診断が遅れた場合は厳しい結果に直面します。化学療法、放射線療法、手術など、命に関わるほど強力で広範な治療が必要になることが多く、それでも救命が難しい場合があります。

治療は一人ひとりに合わせて慎重に計画され、通常は小児がん専門チームが複数の方法を組み合わせて行います。基本は手術で、多くの場合、腫瘍と患側の腎臓を摘出する腎摘除術を行います。特に両側に病変がある場合など、状況によっては腎温存手術を選びます。化学療法は、手術後に残る可能性のあるがん細胞を除くため、または一部の治療法では術前に腫瘍を縮小して安全に摘出するために行います。薬剤と治療期間は、病期と腫瘍の組織型によって決まります。進行例や予後不良の組織型など、特定の高リスクの状況では、再発リスクを下げるため放射線療法を用います。現在の治療では、多くの子どもが治癒します。長期的なケアでは、再発を監視し、晩期合併症に対応しながら、健やかな成長と発達を支えます。

今後の課題

多くの子どもが経験する痛み、つらさ、先の見えない不安に加え、診断を受けた家族は経済的・精神的な困難にも直面します。長期間、子どもの世話に時間のすべてを費やすため、収入を得られなくなり、病気へのストレスに加えて経済的問題が深刻化します。最も基本的な生活費さえ、切実な課題になることがあります。

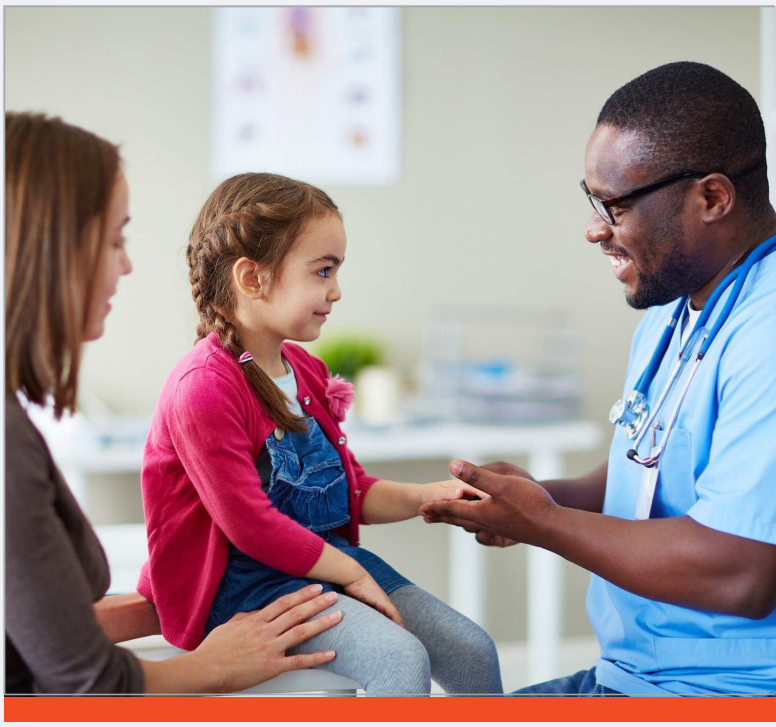
> 「最も基本的な生活費さえ、切実な課題になります」

医療部門も、この病気に対応する多額の費用に直面しています。進行例の治療は、必要な労働時間と資金の両面で、小児医療の予算に重い負担をかけます。一方、リスクがあると判断された子どもの早期発見は、血液検査と超音波検査の組み合わせにより、比較的短時間かつ低費用で行えます。



支援

ウィルムス腫瘍の治療は、小児がんセンターや腎腫瘍の専門プログラムで受けることが望まれます。



中心となる医療チームには、通常、次が含まれます。

- 小児腫瘍医（化学療法とがん診療全体）
- 小児外科医・泌尿器腫瘍医（腫瘍の摘出）
- 放射線腫瘍医（放射線治療が必要な場合）
- 腎臓専門医（腎機能の確認）
- がん看護の専門看護師
- 治療後の長期ケアの専門家

適切な治療は重要です。整備された治療体制では生存率が85〜90%を超え、専門施設での治療は成績を大きく改善します。次の症状があれば、直ちに医療チームへ連絡してください。

- 化学療法中の発熱
- 突然の腫れや痛み
- 呼吸の異常
- 強い疲労
- 精神的な苦痛や抑うつ

> 「適切な治療が重要です。整備された治療体制では、ウィルムス腫瘍の生存率は85〜90%を超えます」





ウィルムスがん財団

電話：+1 (778) 514 5000
メール：info@WilmsFoundation.org
ウェブ：www.WilmsFoundation.org
住所：Suite 2147, 712 H Street NE, Washington DC, United States, 20002.

ウィルムスがん財団、WCF、および「小児腎がんを克服する」「あなたが聞いたことのない病気」というスローガンは、ウィルムスがん財団の国際商標であり、著作権で保護されています。本資料の内容・デザイン：ウィルムスがん財団。無断転載を禁じます。

著作権法により、ウィルムスがん財団の事前の書面による同意なく、本資料の全部または一部を複写、複製、転載、翻訳することはできません。

米国：501(c)(3)免税団体 | EIN：98-3478827 | カナダ：登録慈善団体：756261939BC0001

© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます

© 世界保健機関（WHO）。ウィルムスがん財団（WCF）との協力のもと、許可を得て使用しています。CureAllはWHOの「小児がんに関する世界的イニシアチブ（GICC）」の一環です。WHOは特定の団体、製品、サービスを推奨するものではありません。

© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます